

## 山中康司「テクニカル分析に強くなるオートチャーティスト」更新日：6月7日



1982年慶応義塾大学卒業後、アメリカ銀行に入行。トレーディング業務に従事し、1989年バイスプレジデント。1997年日興証券に移り、1999年日興シティ信託銀行為替資金部次長。2002年金融コンサルティング会社アセダントを設立、取締役就任。

## ■オートチャーティストとは

オートチャーティストとは SaxoTraderGO で取引できる商品のチャート分析を自動で行い、確率が高いと考えられる売買戦略を表示する取引支援ツールです。チャート分析はテクニカル分析でも最も基本かつ重要なチャートパターン（各種の反転、継続パターン）、キーレベルパターン（トレンドライン）、フィボナッチパターン（リトレースメント等）が完成した場合、あるいは形成中に一覧表示されます。一覧表示では、各種パターンの詳細、取引を行う場合のターゲット等の情報が表示され、表示する情報をフィルターで絞り込むことが可能です。この売買戦略レポートでは、この一覧表示の中から翌週にも有効と考えられる通貨ペアを毎週3通貨ペア、ピックアップしていくこととします。

- [10分でできるオートチャーティスト・クイックマニュアル](#)
- [オートチャーティスト・完全ガイド](#)
- [オートチャーティスト・チャートパターン分析入門](#)

## ■先週のレビュー

まず、先週のストラテジの振り返りです。前回は最近にしては珍しく選択肢が多い週でした。確率が高くチャートパターンがシンプルなもの、かつシグナル点灯から時間が経っていないものをピックアップしました。

（1）USDSGDの売り（シグナル点灯5月30日）TP = 1.3361、SL = 1.3484

先週執筆時点のレートが1.33956、その後のレンジは1.33147～1.34002と執筆時点の水準をほとんど上回ることがないままじり安の展開となりました。TPの水準には4日の東京市場で到達していますので、+34.6pipsの利益となりました。シンガポールといえば来週には米朝首脳会談がシンガポールで開かれます。双方の随行員やメディア関係者も含めてかなりの人数がシンガポールに集まりますが、市場規模に比べてシンガポール

ドルのニーズが大きいだろうといった思惑の USDSGD の売りも出ていたかもしれません。

(2) AUDHKG の買い (シグナル点灯 5 月 30 日) TP = 5.9604、SL = 5.8659

先週執筆時点のレートが 5.9375、その後のレンジは 5.8940～6.0116 と執筆時点以降ほとんど下げることなく 4 日の東京市場で TP の注文が来ています。正直言って何が理由なのかはわかりにくい通貨ペアですが、豪州の経済指標が強かったことと豪中銀理事会に向け強めの経済指標が続く中で思惑的な豪ドル買いが出た可能性があります。追いかけてやすい AUDJPY などでも豪ドルが強含んでいました。こちらは +229pips の利益となりました。

(3) EURJPY の買い (シグナル点灯 5 月 30 日) TP = 127.59、SL = 124.62

先週執筆時点のレートが 126.649、その後のレンジは 126.319～129.944 と、執筆時点直後から上昇し、1 日欧州市場で早くも TP に到達しました。しかし、本当の上げはそこからで本日 7 日時点では 130 円の大台目前の水準まで上げてきています。材料はイタリアの政局不安が無くなったこと、そして直近では来週の ECB 理事会における緩和縮小議論について ECB 関係者のタカ派発言が続いていることによるものです。EURJPY の買いは +94.1pips の利益となりました。

今週は先週に続き 3 勝と全てのピックアップがワークしています。やはり選択肢が多いと選び甲斐もありますし、シンプルなチャートパターンを選んだことも好結果につながったと思います。

## ■ イベント通貨の買い

先週のレビューの USDSGD の売りのところで、米朝首脳会談がシンガポールで開かれることから SGD 買い、つまり USDSGD の売りにつながる思惑について書きましたが、これはしばしばイベント通貨の買いとして話題に上るものです。

イベントとして最も有名なのがオリンピック、オリンピックはそれぞれ各国から開催国に大挙して人が押し寄せますのでその国の通貨に買いが入るという動きは自然です。ただ、いつ買われるのかとなると事前に手当てする部分もありますし、後から決済される部分もあります。ただ、為替市場の参加者（ディーラー）目線では、開催に向けて買われやすいという考え方が一般的です。

そしてもうひとつ大きなイベントはサッカーワールドカップです。欧州ではオリンピック以上に人気がある一大イベントですが、こちらも世界中から開催国に向け多くの人が向かいます。サッカーワールドカップは冬季オリンピックの年に開催されますが、冬季オリンピック開催国の通貨はイベント通貨とは扱われないようです。オリンピックとサッカーワ

ワールドカップとで 2 年に一度のスポーツイベント通貨が出てきます。

今年は来週からロシア・ワールドカップですがロシアルーブルは 4 月のルーブル急落後の動きとしてはもみあい、どちらかと言えばもみあい後に再びルーブルが売られそうなチャートです。

そして、次のオリンピックは 2020 年東京ですが、円買いになるのでしょうか。まだだいぶ先の話ではありますが、2 年後に思い出してみてください。

## ■今週の特徴

今週は前週とは違い選択肢が少ない週に逆戻りです。確率 65% 以上の中からの選択ですが、すでに決済されているものもあり、実質的な選択肢は少ない状況となっています。こうなると、相関が高い、同じ材料で動く可能性が高い、と何らかの共通点を見出すことを考えますが、先週のピックアップで出てきたユーロ円をはじめ、ユーロは短期的にいったん底を打った可能性が高いチャートとなっていますね。

そして 5 日、6 日と連日 ECB 理事からのタカ派発言で、ようやく 9 月末での債券購入停止の道筋が示されそうな状況となりました。来週の ECB 理事会は 14 日、ちょうど一週間ありますので思惑的にももう少しユーロが買われる動きが出やすいのではないかと考えられます。そこで、今週はユーロが絡んでいる通貨ペアの中からユーロ買いが出ている通貨ペアをピックアップしました。

EURUSD、EURSEK、EURNOK、すべて EUR 買いのシグナルが昨日出た通貨ペアを選択しています。

## ■今週のピックアップ

### (1) EURUSD の買い



まず一番わかりやすい EUR ストレートの買いです。チャートパターンとしては「上昇トライアングル」の上抜けによる EUR 買いです。シグナルが出た 6 日 8 時から 1 日経過しているうちに、シグナルの方向へと動き TP への道のりの半分まで進んでいることを考えると値幅は少ないのですが、ECB 理事会を前に材料的に EUR 買いがワークしやすいであろうとの見方から選びました。シグナル点灯後 18 時間以内にグレーのゾーン下端にあたる 1.1823 近辺まで上昇する可能性が指摘されています。

戦略：EURUSD の売り（シグナル点灯 6 月 6 日）執筆時点 1.17901

TP = 1.1823、SL = 1.1653

### (2) EURSEK の買い



チャートパターンとしては「下降チャンネル」の上抜けによる EUR 買いです。パターンとしてはチャンネルとウェッジの中間型ですが、いずれもパターンとしてはシンプルでワークしやすいものです。拡張型は先週ありましたがやや難しい傾向があります。こちらも EURUSD と EUR 買いの理由は同じです。EURSEK の買いはシグナル点灯後 11 時間以内にグレーのゾーンの下端にあたる 10.3204 近辺まで上がる可能性が指摘されています。

戦略：EURSEK の買い（シグナル点灯 6 月 6 日）執筆時点 10.27583

TP = 10.3204、SL = 10.2125

### （3）EURNOK の買い



チャートパターンとしては「フラッグ」の上抜けによる EUR 買いです。チャートパターンとしては、これをフラッグに分類するのはやや疑問です。通常フラッグというのはトレンドが出ている時に、一時的にそのトレンドとは逆方向に動き

平行四辺形の踊り場を形成するチャートパターンの名称です。トレンドが出ている時にフラッグが現れるとかなりの確度をもってトレンド再開となる有力なチャートパターンのひとつですが、今回のパターンはどちらかというと拡散型下降チャンネルの上抜けといえるでしょう。EUR 買いの理由はこちらも同様です。シグナル点灯後 7 時間以内にグレーのゾーンの下端にあたる 9.5486 をターゲットとする動きが指摘されています。

戦略：EURNOK の買い（シグナル点灯 6 月 6 日）執筆時点 9.51480

TP = 9.5484、SL = 9.4726

#### 【本レポートについてのご注意】

■本レポートは、投資判断の参考となるべき情報提供のみを目的としたものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

■本レポートは、作成時点において執筆者およびサクソバンク証券（以下「当社」といいます。）が信頼できると判断した情報やデータ等に基づいて作成されていますが、執筆者および当社はその正確性、完全性等を保証するものではありません。また、本レポートに記載の情報は作成時点のものであり、予告なしに変更することがあります。

■本レポート内で示される意見は執筆者によるものであり、当社の考えを反映するものではありません。また、これらはあくまでも参考として申し述べたものであり、推奨を意味せず、また、いずれの記述も将来の傾向、数値、投資成果等を示唆もしくは保証するものではありません。

■お取引は、取引説明書および約款をよくお読みいただき、それらの内容をご理解のうえ、ご自身の判断と責任において行ってください。本レポートの利用により生じたいかなる損害についても、執筆者および当社は責任を負いません。

■本レポートの全部か一部かを問わず、無断での転用、複製、再配信、ウェブサイトへの投稿や掲載等を行うことはできません。